# ★回復への方向性★

ホメオパシーのレメディーを使って症状を治すとき、その回復の方向には決まりがあります。これを発見したのはハーネマンの弟子であるヘリングと言う人です。

１．Above to down
身体の上から下へと症状が治っていくこと。
例：体の上部にある症状から下部へと治っていく。

２．Inside of the body to outside of the body
身体の中から外へと症状が治っていくこと。
例：内臓にあった腫れが身体の表面に出てくる。

３．Important organ to less important organ
重要な器官（臓器）からより重要でない器官（臓器）へと症状が治っていくこと。
例：肺炎から鼻水へ。

４．Disappear reverse order of their appears
症状が現れた順番と反対の順番で治っていくこと。
例：昔罹って完全に治っていなかった病気や押さえ込んでいた病気の症状が戻って来ている場合、後から出た症状が先に治ること。

５．Mental Symptoms are might be expected to improve before physical Symptoms.
精神的な症状は、体の症状より先に改善が見られる。

これらは、そのレメディーがクライアントにぴったり合っているときに起こります。レメディーが適合していないときにはこれらの方向性が顕れませんのでそれと解るようになっています。
又、方向性とは別にレメディーがきちんと適合しているときには Aggravation−−時的な症状の悪化が見られます。
これは少しの間しか続きませんが大事な症状で、患者さんにとっては辛い側面ですが治る印として少し我慢していただくことがあります。

# ★プルービング★

プルービングとは耳慣れない言葉ですが、新しいレメディーを開拓するときの実験のようなものです。

現在、ホメオパシーのレメディーは約 16,000 種類あると言われています。
こうして、書いている間にも世界中で次のレメディーが開発されています。

ではどうやってそれをするのか、ここで説明しましょう。

先ず、まだレメディーとして認知されていない物質を選びます。
例えば、秋刀魚を選んだとします。

秋刀魚をアルコールと水を混ぜたものに漬けて 2〜3 週間置き、それを濾過します。これが、mother tincture　と呼ばれる原液となります。

これを水とアルコールで段階的に薄めて行き（ポーテンシの項を参照のこと）30C をプルービングでは普通使います。

健康な老若男女（子供も入れば尚良い）を 20 人くらい集め、30C で作られたレメディーを与え、1 日 1 回、合計３日間、服用してもらいます。この際、Blind と言って、その方達にはレメディーが何であるかを知らせません。何故なら服用する前に知ってしまうとその物質に対するイメージが生まれ先入観を抱き、症状に変化が起こりやすくなるからです。

また、この 20 人の中には Placeboープラセーボ（偽薬）と言って、ただの水とアルコールを服用させられている人も含まれます。この手法は新薬の開発時にも取られる臨床実験の方法の一つです。

そして服用した日から最低 2 週間、細かく色々な症状をノートに書いてもらいます。それには時間と身体の部位とその様子についてかなり詳細な記述が必要です。

例：〇月〇日、午前９時 30 分
　　突然、右耳に耳鳴りがして、キーンと言う音が 30 秒くらい続く。

〇月〇日、午後８時 25 分
　　夕食の後片付けをしながら急にイライラして、大声を出したくなり、子供に八つ当たりしてしまう。その後に、自己嫌悪に陥るが、イライラ感は収まらず、飛び出したい衝動に駆られる。

と、言う具合です。
そしてこのデータを集めて、そのレメディーの Materia　Medica（マテリア・メディカ）を作るのです。
その中に「午前３時に目が覚めてそれから朝まで眠れない」と言う症状を訴えた例があれば、そう言う症状でクリニックを訪れる人にこのレメディーが合うと言うことになります。

これが、ホメオパシーの本質で「Like　cure　like」なのです。
つまり、ある物質が健康な人にもたらす症状と同じ症状を持っている患者をこの物質が治すことができる。これが、ホメオパシーの基本理念なのです。

ホメオパシーがレメディーとして開発していくものは目に見える物質ばかりではありません。
すでに認知されたものの中には「太陽」「月」などもあります。
また、アルコールや水に溶けない物質（ダイヤモンド、ルビーなど）もレメディーとしてすでに認知さ
れています。